

# マドリード自治大学と協定締結

## 国際交流協定 18カ国・地域27大学に

### 相互交流や共同研究推進

専修大学は、スペインのマドリード自治大学(ホセ・マリア・サンス・マルティネス学長)と国際交流協定を1月16日付で締結した。本学の国際交流協定は18カ国・地域の27大学となった。

マドリード自治大学は1968年に創立されたスペインを代表する総合大学の一つ。マドリード郊外のメイキャンパスと市内中心部に医学部キャンパスがあり、哲文学部、法学部、経済経営学部、理学部など8学部で約3万人が学ぶ。

哲文学部には東アジア研究センターが設置されており、東アジア史や日本文学を専門とする教員や、日本語を学ぶ学生が多く在籍している。専門分野での相互交流や共同研究など多様な連携が期待される。

また、留学生の受け入れ実績も豊富で、学生の学習・生活支援に関するサービスも充実。留学プログラムに参加する本学学生が勉学に励む環境がある。

主な交流内容は、▽学部・研究所・研究グループ・教員間における研究プロジェクトの設立▽研究・教育・セミナー等のための教員交換▽学部学生との交換▽学術資料・出版物・その他情報の交換▽共同文化交流・会議・ワークショップ・セミナー・研修プログラムの企画・実施——となっている。

マドリード自治大学の外観



# ニュース専修

毎月1回15日発行  
発行所  
専修大学広報課  
〒101-8425  
東京都千代田区  
神田神保町3-8  
☎03-3265-5819(直)

https://www.senshu-u.ac.jp/

### 主なニュース

- ① 国家公務員採用総合試験教養区分2人合格…
- ② 商・増田ゼミ×カンロ「さっくりん」新発売…
- ③ 松岡修造さん招きスポーツ研究所公開シンポ…
- ④ 寄付者芳名・専修大学を支援する会…
- ⑤ 石巻専修大学 公立教員・保育士19人が合格…

**2025年度卒業式・学位記授与式**  
日時 3月22日(日) 10時 開式予定  
場所 日本武道館

**大雪で被災された皆様へ**  
1月21日からの大雪で被災された皆様からお見舞い申し上げます。  
専修大学と石巻専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。以下の担当窓口にご相談ください。

- 学生生活課(補田) TEL 03-3265-6824
- 学生生活課(生田) TEL 04-911-1267
- 大学院事務課(補田) TEL 03-3265-6568
- 大学院事務課(生田) TEL 04-911-1271
- 法科大学院事務課 TEL 03-3265-6891
- 石巻専修大学事務課 TEL 0225-227712

## 地域とともに

社会貢献活動

史料の「レスキュー作業」に取り組んだ



水にぬれて貼り付いた古文書のペー지를丁寧にはがし、史料の状態を撮影・記録する。文学部歴史学科の廣川和花ゼミは後期の授業で、令和元年東日本台風で被災した川崎市市民ミュージアムの収蔵品の「レスキュー作業」に取り組んだ。

同ミュージアムは、2019年10月の台風19号で収蔵庫が浸水。建物や設備に加えて、収蔵品にも大きな被害が出た。被災した収蔵品は20万点以上にも及び、外部の専門機関や大学と連携してレスキュー作業を進めていた。

## 被災史料の修復に取り組む

### 文・廣川ゼミ×川崎市市民ミュージアム

25年9月に川崎市と専修大学文学部間で協定を締結し、廣川ゼミが活動に参加。被災した史料を修復する手順のうち、水で貼り付いた紙を一枚ずつ分離・分解して史料情報を台帳に記録する解体作業を担当した。

学芸員を招いて、被災史料に関する基礎知識や具体的な作業手順を学ぶところからスタートし、12月までに150点以上の解体作業を終えた。最終日となった12月15日も、生田キャンパスの史学古文書調査実習室



史料を採寸するゼミ生

とゼミ室で、学芸員の谷拓馬さんの指導を受けながら作業を行った。エプロン、マスク、手袋を身に付けて被災史料と向き合うゼミ生の表情は真剣そのもの。固着した紙を丁寧にはがし、メジャーを使って採寸したり、タグを付けてスマートフォンカメラで撮影したりした。

佐藤寿春さん(3年次)は、「一点物の史料なので慎重に取り扱った。この活動に携われたことが一番の学びで、史料に書かれた昔の文字を読み解いたりするのも楽しかった」と振り返った。

廣川教授は、「戸惑いも見られたが、今では手順を理解し、落ち着いて作業を進められるようになったところに成長を感じる。歴史学科の学生として、生の史料に直接触れる貴重な機会になったと思う」と話した。

### ネット情報

#### 佐藤プロジェクト&まちづくりGDxラボ

## ホップ栽培通じて被災地応援

多摩区と能登島をつないで行われた地域防災交流イベント。能登島会場では多くの住民が参加した



### 川崎市多摩区と石川県能登島つなぐイベント

ネットワーク情報学部の佐藤慶二プロジェクトとまちづくりGDxラボは1月25日、川崎市多摩区と石川県七尾市能登島をオンラインでつなぎ、地域防災交流イベント「たまのとエール2026」を初開催した。佐藤プロジェクトの活動報告、能登半島地震で被災した方々による講話、学生制作の能登応援動画の上映などが行われ、参加者は防災について学ぶとともに、和やかな雰囲気なかで親睦を深めた。

学生と地域の交流をテーマに活動する佐藤プロ

ジェクトは、IoTを活用した自動水やりシステムを開発するなど、地域住民と協力しながら学内外でホップ栽培に取り組んできた。能登島では地域コミュニティの活性化策として仮設住宅でのホップの共同栽培を提案。昨夏以降、定期的に訪問し、現地の方と一緒に収穫などを行った。

イベント当日は、能登島に学生が赴き、住民とともにオンラインで参加。「川崎市と能登島で計1700本のホップを収穫できた」と報告した。

多摩区の会場には約50人の市民らが来場。復興に向けて歩む能登島にエールを送る応援動画が放映されると、両会場は温かな拍手に包まれた。

中村哲さん(3年次)は、「学外での活動では社会人の方と交流する機会も多く、新鮮で貴重な経験になった。今後はスマート農業について学びを深めたい」と話した。

イベントに会場から男性は、「学生と一緒にホップを育てたのは良い思い出。いろいろな話をするのができて楽しかった」と語った。

### クラフトビール「たまのとエール」完成

収穫したホップは、川崎市多摩区のクラフトピアー「Monkey Wrench」の協力で醸造。多摩区と能登島のつながりを表現して「たまのとエール」と命名し、ラベルには学生によるイラストをあしらった。



完成を喜ぶ学生

プロジェクトメンバーは、「フルーティーですっきりとした味わいが魅力。クラフトビール初心者にもおすすめです」と話す。2月7日からピアーの店頭を中心に数量限定で販売する。

「ニュース専修」3月号は**3月26日(木)**発行予定です。最新の情報は大学ホームページ、公式X、Facebookでご確認ください。